

日記

No. _____

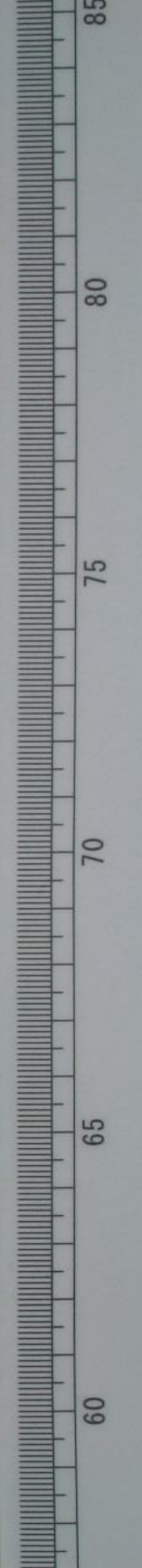
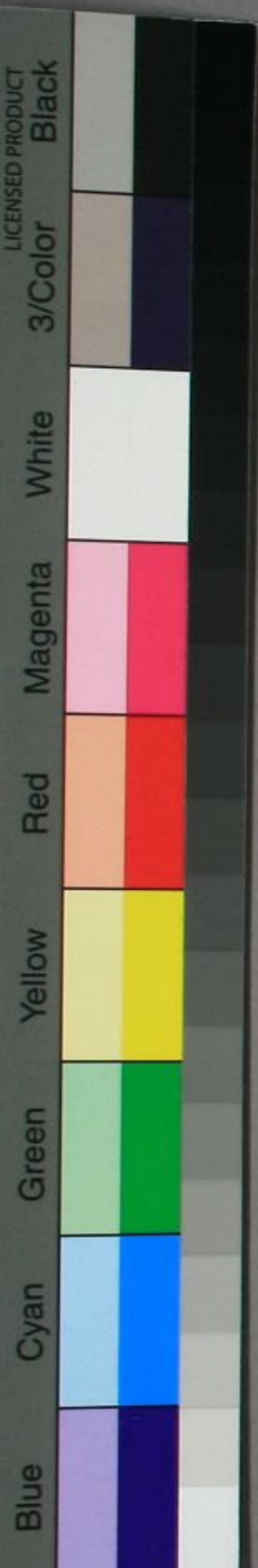
留守日記

横瀬夜雨



四月二日
 細君上京。ちえ子同首。牛込の板本に行つて
 姉の病氣と見。ためである。
 娘元氣よし。乳に離れて留守ある。二と
 は二度目だから。縁合にはしやいゝあるけれ
 とい。時々おもしろい出するし。
 寒いので。おほかた。うちの子
 供等。入の姉妹。ばあが娘。おつぎが。まと。
 の家に入り。みたれて。隠居所。学校。に。まと。
 た。おかし。或る度。に。を朗々。と。話。む。の。が。首
 え。百合子の声。た。
 大木の園。三。本。注文。して。あ。いた
 椿苗。は。う。ち。の。子。で。は。かり。取。ら。う。と。思。つ。た。ら。
 惣立。の。婆。か。り。等。が。あ。ら。に。も。採。ら。せ。て。く。ら。つ
 こい。か。ら。さ。う。ち。た。ん。ね。え。で。あ。した。蓮。が。

皆で
 取ったものを
 1940年5月印刷用紙



やんすしと つかぬた。 花田の山で抜いて来
 りのた。 行方不明になつた。 娘は、また便りが
 無いかと南にほ。 無いと、いふ。 多分死んだん
 であらうよ。 あのあまあも因果。 今あかた
 と多しを語らぬ。 三十二まで嫁に。 行けあ
 からうほ。 頭をかりてのそく。 歩いてお
~~ら~~ ~~し~~ ~~い~~ ~~可~~ ~~来~~ ~~さ~~ ~~め~~ ~~た~~ ~~ら~~ ~~な~~ ~~女~~ ~~を~~ ~~想~~ ~~像~~ ~~す~~ ~~の~~ ~~話~~ ~~材~~ ~~し~~ ~~た~~ ~~の~~
 はさんくわ。 らしの事。 黄直し。 業として
 里から里へ放浪する。 喜旅だ。
 新らしい。 手桶を擔いで。 ちやみか。 入つて来た。
 つい先妻は。 大丸船で。 年始に来た。 かく。 今日日
 水。 世に。 来たらし。 いか。 下宿から。 一里も
 あ。 の。 位。 と思つて。 見。 ぬ。 たら。 豆府を。 賣りに
 来た。 の。 だ。 花嫁の。 豆府。 賣。 り。 珍。 しい。 にか。 手桶
 の。 新。 ら。 しい。 の。 だ。 下宿。 珍。 しい。 子。 獨。 尊。 懸。 け。 出。 し
 て。 来て。 ちや。 姉。 や。 が。 来た。 姉。 や。 が。 来た。
 姉。 や。 は。 花。 嫁。 に。 いら。 した。 した。 わ。 ね。 糸。 と。 り。 ち。 や
 たい。 わ。 ね。
 姉。 や。 ~~お~~ ~~知~~ ~~り~~ ~~さ~~ ~~ん~~ ~~は~~ ~~手~~ ~~桶~~ ~~を~~ ~~か~~ ~~つ~~ ~~い~~ ~~て~~ ~~歩~~ ~~ん~~
 の。

暮に暇とったばかりたから、
夜・雨の立見。凡の音。電燈
消え。 て行く

四月三日。

雨は止んでみたが、寒い。
来日の十三日。あしたは新聞
の新聞が知らぬ歳して出して見ると面白
いんだ。

親爺に青年会長を止めさせたいので
うか。それと。当然やうして置きますか。

乙君相談に来る。学校の方を老朽の理由で止
めさせられたので。青年会の方へ。辞表を出
したら。支部長会議を南に。留任勧告に来た。
またから受けた。と。ろが。受ける。が。早急で
た。とか。で。一。部。の。排。作。道。室。が。起。り。ま。う。た。の。
た。と。い。か。そ。り。や。放。つ。と。く。か。い。排。作。道。室。
は。一。面。支。部。長。不。信。任。た。か。ら。専。ら。海。外。
下。親。爺。は。奥。で。釣。れ。と。い。つ。て。お。う。た。と。
へとす。め。よ。
地。隣。り。の。医。師。と。う。し。あ。の。主。人。公。と。内。外。で。

とうとう合った。境場のくねを医師が黙って結
 ったのはいいが、引っこまて結へばいいの
 に一尺も先へ出ておくれ。何出てぬるもんか。
 といふ事だ。此れも喧嘩にたったのを、う
 の親爺が、この次、猪小時は直す約束で納め
 った。たが、親爺は死んだから、迎へに来ない。
 しあはせて話した。ちうから、
 夜、横濱善一、森幸一、将棋士に来り。
 ちうさ、長火鉢の番。夜番の子供は五人揃
 った。頭ばかり出してすわし、眠ってある。鼻
 うは眠るまで、ちうはい、春人でも、い、か、ち
 うはい、春人で、い、か、ち、
 と指ささでこみか、し、
 長火鉢の二人は、私を知って、たかさへの女をこの話
 をして、高等小学校を卒業したま、は、女だ
 った。か、い、日、か、う、と、し、な、く、男、の、し、た、く、に、
 う、て、か、ぶ、の、し、男、を、あ、る、子、出、し、に、も、
 ち、男、を、あ、る、子、に、す、ま、う、に、な、つ、て、
 さいねになつてゐた。カ、には、隔、つ、て、

私の村に^{若衆}南方のあった時、降出した雨を^降

けけに入つてゐた。と見たか、死白の羽織

に白のさんじやして、鳥打帽と眼帯にかぶつ

てゐた。立立は白くやさしい。とてモ田舎とほ

見えななから、誰一人其性の秘密に觸れた話

とてかたない。今年は二十九だ。

あつたは同じたかすへまされたのでか、此^向

~~の~~ ~~中~~ ~~の~~ ~~女~~ ~~子~~ ~~を~~ ~~見~~ ~~て~~ ~~行~~ ~~つ~~ ~~た~~

まいたか、~~北~~ ~~東~~ ~~は~~ ~~あ~~ ~~れ~~ ~~ほ~~ ~~ど~~ ~~際~~ ~~し~~ ~~て~~ ~~た~~ ~~髪~~ ~~の~~ ~~毛~~ ~~も~~

すっかり~~美~~ ~~つ~~ ~~て~~、~~カ~~ ~~ナ~~ ~~ル~~ ~~バ~~ ~~ワ~~ ~~ク~~ ~~程~~ ~~も~~ ~~長~~ ~~く~~ ~~ほ~~ ~~せ~~

いと^はい^ふ。パイオナリ^ンは夏でも子^を放^す

お、更くれば、^は ^往 ^来 ^と ^流 ^す ^が、^声 ^は ^惚 ^れ ^く ^す

が程やさしいと^いふ。十^三 ^十 ^四 ^の ^こ ^と ^た ^か、

身^は ^荒 ^野 ^放 ^浪 ^が ^面 ^白 ^が ^つ ^て、^そ ^い ^つ ^は ^幾 ^つ ^た ^い

と聞いたか、^り、^十 ^九 ^だ。 ^さ ^う ^か、 ^ち ^や ^微 ^兵 ^検

査の時わか^し ^し

「検査の時わか^し ^し ^た ^を ^か ^し ^さ ^ほ ^今 ^で

も忘れぬが、^旅 ^費 ^も ^死 ^{んで} ^し ^ま ^つ ^た。

ニ
ま
あ
し
て
し

女
を
と
こ
と
誰
か
言
う
た

今
日
ら
も
あ
の
手
細
と
る

私
わ
ら
出
島
の
ち
よ
さ
か
娘

樽
を
根
か
け
も
か
ん
ぶ
し
て

か
ら
り
と
捨
て
、
細
腰
に

巻
い
た
三
尺
猫
ぢ
や
う
し

い
う
で
サ
レ
ヤ
う
め
で
は
な
し
こ
れ
レ
誰
か
誰
か
に

鳥うろ帽子につゝめと
いぼるゝ髪のをゆる瀬たさ
まの却つてち捨てうれす

馬跡 外しの 音 ありふと
戸木 下りれば 海の
瀟々 一和に 下り ぶる

なふりとまよふ ありれもた
とて せに 下り ぬたし
これに 誰か 親身に